中学校１年生　総合的な学習の時間　学習指導案

新居浜市教育委員会学校教育課
指導主幹　伊藤　良夫

１　単元名　　「ふるさと学習（旧別子の学習を通して、新居浜のこれからを考える）」

２　単元の目標

○　本市発展の礎となった別子銅山に関係する先人の知恵や技術、近代化産業遺産について知るとともに、これまでの新居浜市の発展の経緯を理解することができる。　（知識及び技能）

○　学んだことを自分の言葉でまとめ、情報を発信することができる。　（思考力・表現力・判断力）

○　自分たちが住む新居浜の未来を見つめ、将来のまちづくりを考え、イメージすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

３　単元について

⑴　教材観

新居浜市では、義務教育の９年間を通して様々な「ふるさと学習」を行い、校区や地域がもつ歴史や経験を調べたり、見学や体験をしたりすることで、郷土のよさを味わっている。特に中学校では、切り口の一つとして、ふるさと新居浜の歴史を振り返る際の視点を「旧別子」にすることで、焦点化し地域教材として深く学ぶ機会を得ている。具体的には、新居浜の発展に大きくかかわった人物（広瀬宰平、伊庭貞剛、鷲尾勘解治）から、それぞれの行動や考えや理念が、現在のＳＤＧｓにつながることを知ることができる。また、旧別子や市街地にも存在する産業遺産を実際に見学し、現地で説明を聞くことで、自分たちの住むふるさとを空間的に認知することができると考える。

⑵　生徒観

小学校では、３、４年生の社会科で新居浜市の公共施設や神社などを知り、多喜浜校区の塩田や角野校区の吉岡泉など、校区以外の新居浜の文化や伝統を学んでいる。また、小学校６年生では「にいはま検定」にチャレンジし、郷土にいはまに対する愛着を十分に感じ取っている。中学校では、原則１年生で行う旧別子銅山の登山を行い、別子から見る新居浜の風景をとおして、自分たちの住む場所を普段とは違う角度から見ることができる。また、発達段階において、社会の一員としての自己を意識することが増え、たくましく成長する時期を迎えるのもこの頃である。

⑶　指導観

この単元の指導に当たっては、まず、新居浜の歴史を丁寧に振り返り、郷土のよさを味わわせ、自分たちの住む場所に愛着を持たせることが必要である。そのうえで、先人の知恵や様々な歴史や文化を積み重ねて、現在の新居浜があることに気付かせたい。これらの活動を通して、これからの世代の中学生が、未来の新居浜を想像し、責任ある一人の人間として、どのように地域に貢献できるかを考えさせたい。また、新居浜という枠にとどまらず、広い意味での持続可能な社会の創り手となれるように生徒を導きたい。

⑷　ESDとの関連

・　本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…地域の歴史、文化、地形など、地域といってもその捉え方や価値観に正解はない。それぞれのよさを大切にする。

相互性…環境・経済・社会が相互に関わりあって、地域は成長し発展していく。そして、そこには人の考えや行動が大きく関わっていること。

有限性…別子銅山は現在、休山（閉山）しており、銅の採掘はしていない。

公平性…私利私欲のものの考え方では、持続可能な発展は望めない。新居浜市の発展の本質を見極めた先人の判断によって今の新居浜があることを理解する。

連携性…影響力のある一人の行動やリーダーシップも大切であるが、地域全体の連携が大きな力となって社会を動かしていくこと。

責任性…地域の発展に関して、他人任せではなく、生徒一人一人が持続可能な社会の担い手となるための自覚と責任を持つ。

・　本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力

広瀬や伊庭、鷲尾の判断には、今考えると失敗といえる出来事がいくつかある。旧別子の歴史について単なる美談にするのではなく、その事実を科学的に捉えるなど、クリティカルシンキングを働かせる。

未来像を予測して計画する力

自分の成長と重ね合わせて２０年後、３０年後の新居浜を想像し、そこで社会の中心となって地域に貢献している自分をイメージし、今すべきことを考える。

多面的・総合的に考える力

環境や経済、人口の変化など、様々な視点でものごとを捉える。そして、地域の発展とはどのような状態なのか、地域課題にはどのようなものがあるのかを考える。

つながりを尊重する態度

同世代の仲間はもちろん、異世代との交流や、社会のあらゆるステークホルダーとコミュニケーションをとり、つながることでパートナーとなる。また、先人の考え方や功績を理解し、時代を超えたつながりを意識する。

進んで参加する態度

自分の強みを理解し、その強みを行動につなげることで、自分の住む地域に貢献する人材になることを理解する。

・　本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

同世代だけでなく、異学年や小学生、地域の高齢者など、すべての世代にとって、社会に貢献する

営みは重要である。

世代内の公正

同世代の仲間は、課題や情報を共有することが異世代より比較的容易であり、それが社会貢献に対して大きな力となる

自然環境、生態系の保全を重視する。

地域によって自然環境や地形、気候が異なることを理解し、その環境を保全することが、持続可能な社会につながっていく。

人権・文化を尊重する。

地域に根差した文化を尊重することが、持続可能な社会につながる。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

立場の異なる人には、それぞれの幸福感があり、互いに尊重することで社会の幸福感を生み出せる。

・　達成が期待される SDGs

４　質の高い教育をみんなに

１１　住み続けられるまちづくりを

１７　パートナーシップで目標を達成しよう

４　単元の評価規準

ア　知識及び技能	イ　思考力・判断力・表現力	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　地域の近代産業遺産や先人の知恵や技術などについて理解している。 ②　調べたり、学んだりして得た知識を目的に応じて言葉や写真を関連付けながらまとめる技能を身に付けている。	①　これからの地域の発展の在り方について思考し、適切に判断している。 ②　地域について学んだことから、自分たちが伝えたいこと整理し、適切に表現している。	地域の歴史や文化の学習を通して、今度は自分たちが持続可能な社会の創り手であるという自覚を持ち、仲間や地域の方々と連携し、地域の発展に貢献のために行動しようとしている。

５　単元の指導計画（全１３時間）

次	学習活動 （予想される生徒の発言や考え）	学習への支援	評価（◎） 備考（・）
1 2	○　ふるさと新居浜の特徴を再認識する。 ・　海と山があり、自然が豊かである。 ・　別子銅山が有名だ。	・グループワークで意見交換をし、付箋紙を用いて特徴を分類しながら整理する。	ア① ウ

	○　旧別子についての現在の理解を整理する。 ・　昔は銅の採掘が盛んで、にぎわっていた。 ・　広瀬宰平が有名だ。 ・　伊庭貞剛は植林を積極的にすすめた。	・旧別子に焦点を絞り、小学校で学んだ知識を確認しながら、情報の整理をする。	
2 3 4	○　旧別子に関わった３人の先人についてまとめる。 ・　広瀬宰平について（採掘の効率化） ・　伊庭貞剛について（植林事業） ・　鷲尾勘解治について（市街地の整備）	・近代化、環境、市街地開発といったキーワードを人物に重ねることで、歴史の流れや新居浜の発展の様子を構造的に捉える。	ア①② イ②
5 6	○　遠足で「広瀬記念館」「別子銅山記念館」を訪ねる。 ・　身近な場所に旧別子の資料がある。 ・　新居浜の発展は先人の理念によって支えらた。 ・　近代産業遺産をもっと知りたい。	・館長の話を聞くことで、当時の先人の考え方に迫る。また、その考え方がすでに SDGs そのものであることに気付かせる。	ア① ウ
7	○　南高校ユネスコ部から旧別子の話を聞く。 ・　別子地区に行ってみたい。 ・　実際に銅山峰を超えてみたい。	・高校生の話を聞き、かつてはにぎわっていた旧別子への興味を喚起する。	ア①
8 9 10 11	○　旧別子銅山の登山を実施する。 ・　人々の生活の跡を実際に見て、昔を想像できた。 ・　旧別子から市街地を眺め、これからの新居浜について考えてみた。	・現地を訪れることで、かつての賑わいを想像し、今後の新居浜を考える機会とする。	ア① イ① ウ
12	○　これからの新居浜について考える。 ・　人口が減っているので心配だ。 ・　市民一人一人がまちを大切に思うことが大切。 ・　100 年後の新居浜を想像できない。	・過去からのバトンを引き継ぎ、持続可能な社会の創り手となる世代に必要な連携の在り方を考える機会とする。	イ①② ウ
13	○これまでの学習についてふりかえる。 ・　どんなまちにしていきたいか、具体的に考えたい。 ・　どんな状態が発展といえるのかを話し合いたい。 ・　旧別子以外のことについても深く調べたい。	・「発展」の定義を考えさせることで、そこに住む人々が公平に幸福感を味わうことのできるまちづくりが重要であることを意識させる。	ア② イ① ウ